

全学モジュール科目案内

テーマ名	13-03 安全で安心できる社会		
テーマ責任者	田中 俊幸	責任部局	全学協力体制
対象学部	教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
趣旨	<p>今日、テロ、医療事故、自然災害、原子力、メディア・スクラム、モラル・ハザード等々、日常を取り巻く危険や不安が私たちの回りには蔓延しています。このような危険や不安に、どのように対処していけばいいのか、何をなすべきか、どう考えるべきか、そして何をしたらいけないのかについて学び、危険や不安のない安全・安心な社会の構築に貢献しうる知識と理解を涵養することを目的としています。</p> <p>安全・安心な社会を構築するためには、目指すべき安全で安心できる社会のイメージを明確にすることが必要です。安全は危険や事故に遭遇したときに意識するもので、普通の状態ではつい見逃してしまうのですが、一方で、普段の取り組みが重要となります。</p> <p>本授業では、そもそも、安全とは何か、安心とは何かについて、「人の生存を脅かす問題からの安全・安心（健康と医療の安全・安心）」、「人為的な脅威からの安全・安心（リスク社会と社会科学）」、「災害・事故からの社会システムの安全・安心（科学と技術の安全・安心）」の観点から検討し、安全は与えられるものではなく、自ら努力をして維持することが重要であることを認識するとともに、日常意識をどのように保てばいいのか、自らが考えることで安全・安心が実現できることを理解を深めることを教育目標としています。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 放射線と感染症の健康リスクを正しく理解し、説明できる：科目 I a「健康と医療の安全・安心」 リスク社会の不安や不確実性の克服に社会科学がどのように応え、応えようとしているかを、経済、経営、法の側面から理解できる：科目 I b「リスク社会と社会科学」 科学技術の発展の産物であるシステムの中で、安全を維持し安心を図るために必要な基本的な考え方を習得し、説明することができる：科目 I c「科学と技術の安全・安心」 関心をもった安全・安心領域（健康・医療、社会科学、科学と技術）の知識と技能を活用できる：科目 II a～II f 教養教育の全体目標を理解し、各科目の履修を通して関連目標の達成をめざす（全学モジュール共通目標） 以上を通して、物事を多面的に捉え広い視野から考える能力を身につける（全学モジュール共通目標） 		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>2011.3.11 東北地方太平洋沖地震による未曾有の東日本大震災では、「想定外」という言葉を何度となく聞き及び、政治も経済も科学技術も全く役に立たず、最後は音楽、文学、宗教が生き抜く力となったことをまざまざと感じました。地球上で起こっているテロ、医療事故、自然災害、原子力、メディア・スクラム、モラル・ハザード等の危険や不安を想定し、それに対処できる、あるいは、そのような危険や不安を払拭し、安全で安心できる社会の構築が私たちの使命ではないかと思えます。安全で安心できる社会について、学生と教員とともに考えていきましょう。</p>		

	科目名	担当者名	概要	キーワード
モジュールⅠ	健康と医療の安全・安心	浜田 久之 菊池 泰樹 池田 通 金子 高士	健康を維持するために日ごろ意識することが何か、医療とのかかわりを正しく理解するために必要な考え方を身につける。また、健康で安心した生活を送るために医療はどのようなかかわりを果たすのかを自ら考え、取り組む意識を育てる。	医療システム 健康増進 様々な疾病
	リスク社会と社会科学	薛 軍	産業社会の進展による生活水準の上昇の一方で進行したリスク社会の不安や不確実性の克服に社会科学がどのように応え、応えようとしているかを経済、経営、法の側面から照射し、学問の現段階を理解する。	(仮)リスク、分散、再分配、福祉社会、社会保障
	科学と技術の安全・安心	林 秀千人 高橋 和雄 田中 俊幸 久保 隆	人間が安全で快適な生活を送るために、科学技術の発展が図られてきた。一方で、個人などでは処理できないさまざまなシステムが働いている。その中で、安全を維持し安心を図るために必要な基本的な考え方を習得するとともに、組織の中で個人が取り組む安全・安心の意識を育てる。	科学技術の安全、システムの安全と安心、安全文化と安心
モジュールⅡ	医療現場の安全と安心	橋爪 真弘 新川 哲子 田崎 修 田中 隆	急速なグローバル化や災害への対策が急務とされる今日の状況において、医療現場で人々の健康に関する安全と安心を維持するためにどのような対応が求められるか、総合的に理解する。	放射線リスク、災害医療、天然毒、熱帯感染症、気候変動

自然災害とインフラ 長寿命化	松田 浩 森田 千尋 蔣 宇静 高橋 和雄	地震、火山、台風、水害などの自然災害の歴史を理解するとともに、自然災害におけるリスク管理と防災計画を理解する。また、膨大な数のインフラ構造物の劣化・老朽化状況を把握するとともに、構造物の強度と長寿命化の意義を理解する。	自然災害、リスク管理、防災、インフラ、劣化・老朽化、長寿命化、構造強度
破壊事故と ヒューマンファクタ	勝田 順一	“ものづくり”は、建造するものが壊れず、かつ、要求される性能を発揮できる必要がある。ところが、実際には、様々な“もの”が様々な原因で壊れ、時には悲惨な事故となることがある。 講義では、“ものづくり”の成果や破壊事故の実情を講義とビデオにより紹介する。また、“もの”が壊れる条件についてわかりやすく説明する。さらに、近年、事故発生に人のミスが関わっていると多くの指摘がある。ヒューマン・エラーについて体験し、人のミスを防ぐための安全確保に関する考え方について紹介することを目的とする。	ものづくり、破壊事故、ヒューマンエラー、安全文化
水環境の安全と安心	田邊秀二	水市場は、2025年には約87兆円に成長すると予想される。特に途上国地域、南アジア、中東・北アフリカにおいて年間10%以上の市場の成長が見込まれる。そのような世界と日本の水資源の事情を整理し、日本の現状と今後、水処理技術について、日本が今後できること、しなければならないことについて理解する。	水環境、水処理技術、インフラ輸出
環境リスクと社会	早瀬隆司	環境リスクの生い立ち・性格、環境リスクに対する社会の対応、環境リスクと他の社会的なリスクとの関連や競合	科学技術と環境リスク、行政と市民

全学モジュールの目標 キーワード、および授 業編成の視点との対応	技能・表現						知識・理解			態度・志向性				※授業編成の視点			
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	A	B	C	D
	自主的 探究	批判的 思考	自己 表現	行動 力	日本語 コミュニ ケーション 力	英語 コミュニ ケーション 力	基盤 的知識	環境 の意義	多様 性の 意義	社会 貢献 意欲	学問 を尊 敬す る態 度	自己 成長 志向	相互 啓発 志向	哲 学 的 な 切 り 口	歴 史 ・ 略 史 を 扱 う	現 代 的 な 話 題 を 取 り 入 れ る	ア ク テ ィ ブ イ ン テ ー ニ ン グ の 活 用
健康と医療の安全・安心	○	◎	◎		○		◎	○	◎	○		◎					
リスク社会と社会科学	◎	◎	○		○		◎	○	◎	○	◎			○	○	○	
科学と技術の安全・安心	◎	◎	◎	○	◎		◎		◎	○	○	◎	○			○	◎
医療現場の安全と安心	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	◎	○
自然災害とインフラ長寿命化	◎	○	○	○	○		◎	○	○	◎	○		○	○	◎	◎	◎
破壊事故とヒューマンファクタ	◎	◎	◎		◎		○		◎	○	○	◎	○	◎	○	◎	◎
水環境の安全と安心	◎			◎	○	○		○	◎	◎			◎		○	◎	◎
環境リスクと社会	◎	◎	○			○		◎	◎	◎		○		◎		○	○
◎(特に重要)の数	7	5	3	1	2	0	4	1	6	4	1	3	1	2	1	4	4
○(重視)の数	1	2	4	3	5	3	2	5	2	4	4	2	4	3	4	3	2

※工学部・水産学部に
係る JABEE 項目